Kenko

MIRROR LENS 400mm F8

取扱説明書

この度はケンコーミラーレンズをお買い上げ頂きまして誠にありがとうございます。このレンズは反射式光学系を採用することにより、長焦点距離にもかかわらず、コンパクトボディを実現した一眼レフ用望遠レンズです。
ご使用にあたってはこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくお使いいただきますようお願いいたします。
※ご使用の前には必ず「安全上のご注意」をお読みください。

●ご使用前に本取扱説明書を必ずお読みください。

株式会社 ケンコー・トキナー　http://www.kenko-tokina.co.jp/

本　社〒161-8570 東京都新宿区西落合3-9-19
■東京営業所 ☎03(5982)1060(代)　■山梨販売課 ☎03(5982)1068(代)

大阪営業所 〒540-0005 大阪市中央区上町1-2-13
■大阪営業所 ☎06(6767)2640(代)　■大阪販売課 ☎06(6767)2652(代)

名古屋出張所　〒460-0008　名古屋市中区栄1-15-6（サカエミヤシタビル1F）　☎052(232)3331(代)
札幌出張所　〒060-0042　札幌市中央区大通西15丁目1-11（北日ビル第2大通405号）　☎011(613)2176(代)
仙台出張所　〒980-0011　仙台市青葉区上杉3-2-11（上杉NSビル2F）　☎022(211)0180(代)
福岡出張所　〒812-0011　福岡市博多区博多駅前3-12-3（玉井親和ビル1-H）　☎092(476)5071(代)

●営業時間　月～金曜日（祝日・祭日・年末年始・夏期休暇等は除く）9時～12時・13時～17時

■保証書について

この製品には保証書がついています。お買い求めの販売店で、お名前、ご住所、ご購入店名、ご購入日など所定の事項を記入した保証書を必ずお受け取りください。
保証期間内の故障の修理には、保証書が必要です。大切に保管してください。

本説明書では、危険をその内容、程度に応じ、次の2種類に分けています。

⚠警告
この指示に従わないで誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性があります。

⚠注意
この指示に従わないで誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性があります。また、物的損害が発生する可能性があります。

本説明書では、次のような絵表示を使用しています。

△は、注意が必要な内容があることを示しています。図の中に描かれているのは注意の内容です。（左図は発火注意）

⃠は、禁止を示しています。図の中に描かれているのは禁止の内容です。（左図は分解禁止）

●は、指示を示しています。図の中に描かれているのは指示の内容です。（左図は注意する旨の指示）

■レンズ安全上のご注意

安全のため、ご使用前には必ずこの「レンズ安全上のご注意」をよくお読みになり、それぞれの注意事項をお守りください。

⚠警告

⃠ レンズで直接太陽をのぞかないでください。
失明の原因となります。

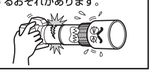
⃠ レンズは幼児の手の届くところには置かないでください。
落ちたり倒れたりしてケガをするおそれがあります。
また、ストラップが首に巻けくと、窒息するおそれがあります。

⚠注意

● レンズをカメラに装着する時は、レンズをカメラに正しくセットし、きちんとロックされたことを確認してください。正しく装着されていない場合、はずれて落下しケガをしたりするおそれがあります。

⃠ 日光が直接当たるところにレンズを置かないでください。
△ レンズによって近くの物に集光し、火災が発生するおそれがあります。

⃠ カメラに装着したレンズに無理な過重をかけないでください。
レンズおよびカメラ側のマウント部分が損傷するおそれがあります。
● 大型のレンズはマウント部分に負荷がかかりやすいので、操作時や移動時には必ずレンズを持つようにしてください。



● 長期間使用しないときや、結婚式や海外旅行など大切な写真を撮る時には、必ず事前にレンズをチェックしたり試し撮りをしたりして、失敗を防ぐようにしてください。

⃠ レンズを改造、変造しないでください。レンズやカメラの故障の原因になります。改造、変造したレンズはサービスセンターでの修理が受けられない場合があります。また、ゴミや泥、砂、ホコリ、水、有害ガス、塩分などがレンズの中に入ると、故障の原因になりますからご注意ください。
※シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。

⃠ このレンズは防水機構になっておりません。水没させないようにご注意ください。水没品は、ほとんど修理不能になりますので、取り扱いに十分ご注意ください。レンズ本体やレンズ面に水滴や泥、砂などがついている時は水滴をぬぐい、砂などをブロアーなどできれいに落としてから静かにレンズをカメラからはずし、さらに、マウント側の水滴をぬぐい、泥、砂などもブロアーなどできれいに落としてください。とくに海辺などで使用した後は、塩分が残らないように十分拭いてください。
水滴などがついたまま放置しますと、毛細管現象により水がレンズ内部に浸み込んでいき故障の原因になりますのでご注意ください。

⚠注意

⃠ ●当社以外で分解・改造されたもの、あるいは保存上の不備または誤った使用による故障、落下衝撃による故障、浸・冠水、砂入り品などは保証期間中であっても修理は有料となります。また、損傷が著しく製品の性能復元ができかねる場合、修理不能となることがありますのでご了承ください。

● ●万一故障などした場合は、レンズをご自分で修理しないでそのままの状態で、保証書とご一緒にお買い上げ店か当社のサービス機関までお持ちください。
なお、故障の状態によっては、その際撮影済みのフィルムやメディアなどを添付して頂くと、修理作業の参考になります。

● ●保証期間経過後の修理は、原則として有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

● ●お取り扱い上の不注意（使用説明書以外の誤操作、落下、衝撃、水かかり、砂・泥の付着、レンズ内部への水・砂・泥の入り込みなど）、お手入れの不備（カビ発生など）により発生した故障は有料修理または修理不能になる場合があります。

⚠ ●本製品の故障に起因する付随的障害（撮影に要した諸費用および撮影により得られる利益の損失など）については、補償いたしかねます。

⃠ ●本製品は写真撮影のための製品であり、それ以外の使用目的で使用された時の故障および付随的障害については、ご容赦ください。

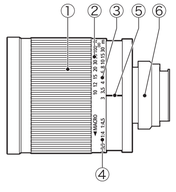
個人情報について

※保証書を通じてお客様からご提供いただいた個人情報を、修理完了後、速やかに廃棄いたします。
※ご協力いただきました記入事項につきましては、ご提供いただきました個人情報のうち、年齢・性別等個人を識別、あるいは特定できない情報と関連付け、統計的データに加工して利用する場合があります。
※当社は、お客様の個人情報を第三者へ開示いたしません。ただし、以下の場合を除きます。
●お客様の承諾を得た場合。
●お客様の明示した利用目的の達成に必要な範囲内において、業務委託先に個人情報を開示する場合。ただし、この場合に当社は、法令上、個人情報の安全管理が図られるよう、当該業務委託先に対して必要かつ適切な監督義務を負います。

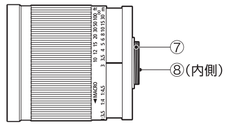
1 各部の名称

①フォーカスリング
②距離目盛（フィート表示）
③距離目盛（メートル表示）
④マクロ倍率目盛
⑤距離目盛指標
⑥Tマウント
⑦Tマウント取り付け部
⑧フィルター取り付け部

【図1】



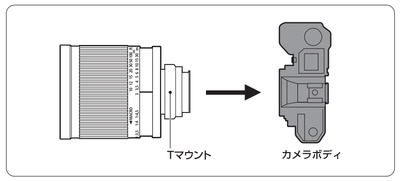
【図1　Tマウントを外した状態】



※Tマウントは、カメラメーカにより形状が異なります。

2 カメラボディへ装着

このレンズには、各マウントに対応するTマウントが付いております。
Tマウントとカメラボディの指標を合わせ「カチッ」と音がするまで回します。
（取り付け、取り外しは、カメラの取扱説明書「レンズの取り付け」「レンズの取り外し」の項目をご確認ください。）
取り付けた後、ガタがないか確認をします。



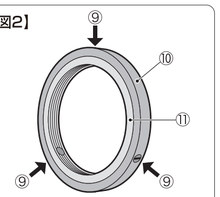
3 Tマウントについて

このレンズには、各マウントに対応するTマウントが付いております。レンズの位置を調整するときや、後部フィルターを取り付けるときに、Tマウントの位置調整や取り外しが必要になります。
以下の手順に従い、位置調整や取り外しをおこなってください。

⑨外周ネジ（3箇所）
⑩外周リング
⑪内周リング

※⑨の外周ネジを緩めすぎると、⑪の内周リングが外れますのでご注意ください。

【図2】



※Tマウントは、カメラマウントにより形状が異なります。

レンズをカメラボディに装着した際、距離目盛指標（図1の⑤）が真上にこない場合、以下の手順で調整をおこなってください。

1 図2の⑨外周ネジ（3箇所）を軽く緩めます。
※この際、ネジを緩めすぎるとTマウント内側のリング（図2の⑪）が外れる恐れがありますので、緩めすぎに注意してください。
※ネジを緩めるときは、市販の精密ドライバーをご使用ください。

2 レンズを回転させ距離目盛指標が真上にくるように調整し、図2の⑨外周ネジ（3箇所）を確実に締めます。

レンズからTマウントを取り外す場合、以下の手順でおこなってください。

1 カメラボディからレンズを取り外します。

2 図2の⑨外周ネジ（3箇所）を軽く緩めます。
※この際、ネジを緩めすぎるとTマウント内側のリング（図2の⑪）が外れる恐れがありますので、緩めすぎに注意してください。
※ネジを緩めるときは、市販の精密ドライバーをご使用ください。

3 レンズを持ちTマウントを反時計周りに回し、レンズからTマウントを取り外してください。

4 カメラボディの設定

レンズを装着する際、カメラによって設定が必要です。以下をご参照いただき、カメラの設定をしてください。詳しくはカメラの取扱説明書をご参照ください。

ヒント 基本的に晴天時ISO感度400の場合に、シャッタースピードは1/500～1/1000が目安になります。デジタル一眼レフカメラをお使いの場合には、液晶モニターで撮影結果を確認しながら撮影してください。
●撮影画像が暗すぎる場合　：シャッタースピードを遅くする。
●撮影画像が明るすぎる場合：シャッタースピードを速くする。

●キヤノンEOSシリーズ

「Av（絞り優先）」モード、「M（マニュアル）」モードで使用可能です。
■「Av（絞り優先）」モードでの使用方法
1. 露出モードを「Av」にセットします。
2. 必要に応じて露出補正をおこないます。

キヤノンEOSシリーズのカメラに本レンズをご使用になる場合、一部の機種ではカメラの機構上、下記の操作が必要になります。
・本レンズを装着したときに、絞り値が " 00 " と表示される場合:
　そのままご使用できます。
・本レンズを装着したときに、絞り値に数値（F5.6など）がされる場合:
　絞り値を開放（最も少ない数値）にしてご使用ください。
※EOS-700、750、850では絞り優先モード（Av）とマニュアルモード（M）がないため使用できません。
※コンパージョンレンズ、接写リングを取り付けた場合、ボディが正常に作動しませんので、この組み合わせでは使用しないでください。
※フォーカスエイドは使用できません。
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exif には、絞りの値は表示されません。

●ニコン

カメラの機種により、使用できる露出モードに制限があります。
カメラ取扱説明書の「使用できる非CPUレンズ一覧」などの項目をご参照ください。

D100、D50、D70、D70S、D40、D40X、D60、D80、D90、D5000、D3000、D3100

上記のカメラに本レンズをご使用になる場合、撮影モードを「M（マニュアル）」モードにてご使用ください。それ以外のモードでは、シャッターを切ることができません。
※撮影状況に応じてシャッタースピードを調整する必要があります。
※フォーカスモードをMFにしてご使用ください。
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exifには、絞りの値は表示されません。

●ソニーα

撮影モードを「M（マニュアル）」モードにてご使用ください。α77など一部機種では、レンズなしレリーズロックの解除が必要です。
メニュー ⇒ カスタムメニュー ⇒ レンズなし時のレリーズを許可に変更
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exif には、絞りの値は表示されません。

●ソニー NEX（Eマウント）

レンズなしレリーズロックの解除が必要です。
メニュー ⇒ セットアップ ⇒ レンズなし時のレリーズを許可に変更
撮影モードは、シャッタースピード優先以外のモードは使用できます。シャッタースピード優先は、推奨しません。
※プログラムモード・絞り優先モード・マニュアルモード使用時、ISO 感度を AUTO に設定してください。
　メニュー ⇒ 明るさ・色合い ⇒ ISO 感度 ⇒［AUTO］に設定
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exif には、絞りの値は表示されません。

●オリンパス　マイクロフォーサーズ

撮影モードは、シャッタースピード優先以外のモードはご使用できます。シャッタースピード優先は、推奨しません。
※プログラムモード・絞り優先モード・マニュアルモード使用時、ISO 感度を AUTO に設定してください。
　カスタムメニュー ⇒ 露出 / 測光 /ISO ⇒［AUTO］に設定
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exif には、絞りの値は表示されません。

●パナソニック　マイクロフォーサーズ

レンズなしレリーズを［ON］に設定する必要があります。
カスタムメニュー ⇒ レンズ無しレリーズ ⇒［ON］に設定
撮影モードは、シャッタースピード優先以外のモードは使用できます。シャッタースピード優先は、推奨しません。
※プログラムモード・絞り優先モード・マニュアルモード使用時、ISO 感度を AUTO に設定してください。
　カスタムメニュー ⇒ ISO 感度 ⇒［AUTO］に設定
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exif には、絞りの値は表示されません。

●ペンタックス

撮影モードは、「M（マニュアル）」「Av（絞り優先）」モードでご使用できます。
ボディ内手ぶれ補正機能をご使用になる場合は、「焦点距離入力」画面で「レンズの焦点距離」を設定してください。
※絞り優先モードでの絞りの操作はできません。
※Exif には、絞りの値は表示されません。

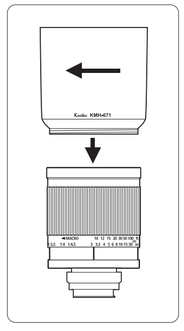
カメラ本体の設定方法、操作方法の詳細は、各カメラメーカーの窓口にお問い合わせください。

5 レンズフード

レンズフードは斜め前方や側方からの強い光が直接レンズに入って、写真にフレアーやゴーストが入るのを防ぐためのものです。鮮明でスッキリした写真を写すためにも、またレンズの保護のためにも、ぜひレンズフードをご使用ください。

●取付け方法

レンズフードは、ねじ込み式です。
右図の方向にレンズフードを回転させて、確実に取付けてください。
取外す時は、右図の方向と反対に回転させてください。



6 写真撮影について

●手ブレを防ぐために

・このレンズは小型軽量ですが長焦点距離の望遠レンズです。
　一般に望遠レンズでの撮影では、画角が狭くなり手ブレをおこす確率が高くなります。高感度に設定して高速シャッターを切るか、しっかりした三脚または一脚を使用して撮影することをおすすめいたします。

ヒント ケーブルレリーズの使用やセルフタイマーでの撮影によりブレを回避することができます。その場合は必ずしっかりとした堅牢な三脚をご使用ください。また、ミラーアップ機能のあるカメラであればミラーアップを併用することでさらにブレを防ぐことができます。

●望遠レンズ使用時の撮影条件

・望遠撮影時には拡大率が大きくなるため、大気中の埃や水蒸気などが画質に影響します。シャープな写真を撮影するためには、快晴日が数日続く風の少ない日に、排気ガスや煙突からの煙などの影響を受けにくい場所でご使用いただくことが理想です。

ヒント 夏季の山岳地帯や海岸線ではガスや水蒸気が多く、なかなかシャープな写真を撮影するのは難しいものです。しかし、揺れる大気を通して海原を写したり、モヤに霞む山の稜線を写すなど、悪条件を逆手にとって個性的な作品作りをするのも写真撮影の楽しみの一つです。

●露出の調整

・このレンズは反射式光学系を採用しているため絞りは固定となっています。従って、光量の調節はシャッタースピード（デジタルカメラの場合は、ISO感度でも調節できます）を変えることでおこなってください。ただし、スローシャッターを切るとブレやすくなりますので高感度設定ないし、高感度フィルム（ISO400以上）をお使いいただくことをおすすめします。
・絞り優先AE機能付カメラのほとんどの機種（ニコン・ソニーの一部機種を除く）で自動露出撮影が可能です（プログラムAE、シャッター優先AEは不可）。レンズを外したカメラボディで絞り優先AEにセットし、明るい場所と暗い場所でシャッターを切った場合に、シャッター速度が異なれば自動露出が可能です。

ヒント このレンズは後部にフィルターを取り付けることができます。（図1の⑧）
通常ミラーレンズはレンズ後部にフィルターを取り付けます。

ヒント このレンズは電気接点がないため、カメラボディとの間で電気的な信号のやり取りがありません。従って、カメラ側のファインダー表示や液晶画面の表示がでないことがありますが、撮影には特に問題はありません（天体望遠鏡やフィールドスコープをカメラに取り付けて撮影しているのと同じ条件になります）。

●ピント合わせ

・このレンズはオートフォーカスには連動しません。ピント合わせはマニュアルフォーカスとなります。フォーカスリングを回してピントを合わせてください。
・望遠レンズでは被写界深度（被写体に対するピントの合う範囲）が浅くなり（ピントが合う範囲が狭くなり）、ピント合わせが難しくなります。
　しっかりとした三脚または一脚を使用して慎重にピントを合わせるようにしてください。

ヒント 一般に300mm以上の超望遠レンズは無限遠マーク位置（∞）に余裕をもたせてあります。これは、鏡筒内の温度変化により空気中の光の屈折率が変わるために、ピントの位置が多少移動することがあるためです。したがって、遠景や星空など遠くの物を撮影する場合でも必ずファインダースクリーンの像を確認しながらピントを合わせてください。

ヒント ライブビュー機能付きのデジタルカメラであれば、拡大機能を利用し、厳密なピント合わせが可能です。

7 性能表

明るさ	F8（固定）
レンズ構成	2群6枚
最短撮影距離	1.15m
マクロ倍率	1:2.5
フィルター径（レンズ前面フィルター径）	30.5mm（67mm）※
最大径	φ74mm
全長（Tマウントを含まず）	82mm
重量（Tマウントを含まず）	340g
レンズフード	KMH-671

※レンズ前面へのフィルター取り付けは、レンズ前面中心の反射部（黒い丸の部分）に、フィルターが干渉しないことを事前に確認の上ご使用ください

仕様や外観は製品改良のため予告なく変更する場合もありますのでご了承ください。

8 困った時は

「故障かな?」と思ったら、もう一度確認、点検してみましょう。

取り付けについて

症　状	原　因	対　策
カメラに取り付けることができない。	❶レンズにTマウントを取り付けていない。 ❷Tマウントとお使いのカメラのマウントが対応していない。	❶レンズにTマウントを取り付け、カメラにセットしてください。 ❷お使いのカメラに対応したTマウントを別途ご用意ください。 【参照：3　Tマウントについて】 ※お使いのカメラメーカーによっては複数のマウントが存在します。詳しくはお使いのカメラメーカーにお問い合わせください。 （フォーサーズ・マイクロフォーサーズなど）
マウント部がガタつく。	❶Tマウントの外周のネジ（3箇所）が緩んでいる。	❶市販の精密ドライバーにて、外周のネジをしっかり締めてください。 【参照：3　Tマウントについて】
距離目盛指標が真上にこない。	❶レンズとTマウント取り付け位置の調整をおこなっていない。	❶Tマウントの外周ネジを緩め、レンズを回転させて距離目盛指標が真上にくるように調整し、Tマウント外周ネジを締めてください。 【参照：3　Tマウントについて】
他のマウントが取り付けられない。	❶レンズ側にTマウントの内周リングが、取り付けられたままになっている。	❶Tマウントは二重構造になっていますので、Tマウント外周ネジ（3箇所）を緩めて外してしまった場合には、再度Tマウント外側リングを取り付け、Tマウント外周ネジを締めて、レンズからTマウントを完全に外してください。 【参照：3　Tマウントについて】

撮影について

症　状	原　因	対　策
シャッターが切れない。	❶撮影モードの設定が装着したレンズに対応していない。 ❷カメラボディ側の設定が、電気接点の無いレンズを装着したときにシャッターが切れない設定になっている。 ❸カメラボディ側のフォーカス設定をAF（オートフォーカス）にしている。AF設定の場合、本レンズのピント位置をカメラボディ側が検知できず、シャッターが切れない事があります。	❶❷【参照：4　カメラボディの設定】や【カメラの取扱説明書】をお読み頂き、撮影前に必要な設定をおこなってください。 ❸カメラボディ側のフォーカス設定をMF（マニュアルフォーカス）にしてください。
カメラのファインダー表示や液晶画面の表示が出ない。	❶本レンズには電気接点がないためカメラとの電気的信号通信がないためです。	❶撮影には問題はありません。
像がぼける。	❶撮影時の手ブレ ❷被写体までの撮影距離が近い。 ❸大気中の埃や水蒸気の影響。 ❹レンズが汚れている。	❶カメラをしっかりと固定して撮影してください。 ※三脚、一脚の使用をおすすめします。 ❷被写体までの距離を離して撮影してください。 ❸大気中の埃、水蒸気、排気ガス等の影響の少ない所で撮影してください。 ❹柔らかい布でレンズをきれいに拭いてください。 【参照：6　写真撮影について】
ズームができない。	本レンズは単焦点レンズです。	
オートフォーカスで使用できない。	❶本レンズはマニュアルフォーカスです。	❶フォーカスリングを回し、マニュアルフォーカスにてピント合わせをしてください。 【参照：6　写真撮影について】
絞りの調整ができない。	❶本レンズの絞りは固定です。	❶シャッタースピードを変えることによって露出の調節をおこなってください。 【参照：6　写真撮影について】

その他

症　状	原　因	対　策
他のマウント（メーカー）のカメラで使用したい。	❶別売の各種Tマウントを取り付けることにより使用可能です。	❶ご使用カメラのマウントを確認の上、お買い求めの販売店にご相談ください。
フィルターを取り付けたい。	❶【参照：1　各部の名称】図1の⑧フィルター取り付け部に、フィルターを取り付ける事ができます。 ※通常、ミラーレンズはレンズ後部にフィルターを取り付けます。	❶レンズ前面へのフィルター取り付けは、レンズ前面中心部にフィルターが干渉しないことを確認の上、取り付けてください。
対物側レンズ（被写体側のレンズ）中心の黒いキャップのようなものが外れない。	❶像を反射させるためのレンズ構造の一部です。	❶そのままの状態でご使用ください。
まっ白、まっ黒で写らない。	❶露出が大きくずれている。	❶絞り優先AEが使えるカメラでは、露出補正である程度補うことができますが、「M」モードでのみ撮影可能な機種は、AEだけでなくカメラ内露出計も連動しません。 取扱説明書を参考にシャッター速度を設定し、撮影してください。